

節水

喜界町立喜界中学校 二年 上^{うえ}地^ち 琉^{りゅう}喜^{うき}

ぼくはテニス部に所属している。練習の間で休けいが入るとみんなが必ずすることがある。それは水を飲むことだ。自分で持ってきた水筒や水道などから水を飲む。きつい練習のあとに飲む水は最高に美味しいと感じる。今、ぼくたちが生きているこの時代を見渡せば周りにはすぐ水道がある。水を飲む場所なら学校の廊下にも、いたるところにある。手洗い場なら、トイレにも家にもある。一日行動の中で、どれほど水と触れ合う機会があるだろうか。まず、朝起きたら顔を洗う。そして、歯をみがく、学校の中でも、給食前に手を洗ったり、のどがかわいたときに飲んだり、トイレへ行った後に手を洗ったりなど水と水とぼくたちが一日触れ合う機会は数えきれない。

日本は自然にめぐまれており、自分が飲みたいその時にいつでもどこでも飲むことがで

きる。だから、ぼくたちは、これが「当たり前」だと感じている。しかし、世界全体を見てみると、水を必要としている人がたくさんいる。こういう人がいるとき、ぼくたちが水と触れ合うことは本当に「当たり前」なことなのだろうか。ぼくは「当たり前なことではない」と思った。だからといって都合よく水を差し出せない。

そこで、ぼくは考えてみた。どうすれば、水を無だづかいせずに使うことができるのか。そのために、まずぼくは、一人が一日にどれくらいの水を使っているのか調べてみた。すると驚いたことに平均二百四十リットルもの水を使っていることが分かった。二百四十リットルというのは二リットルのペットボトルがおよそ百二十本分の水だ。想像もつかない。この量は水を飲むときだけでなく、トイレを使ったときや炊事するときも含めた量である。このことから、ぼくたちが水を無だづかいしていることが多いとわかった。

しかし、その分日頃から心がけて水の無だ
づかいをしないようにする「節水」をしなけ
ればならないことも多く見つけた。ぼくが心
がけたいことは二つある。まず一つ目は、歯
みがきのときだ。これは学校のときだけでは
なく、家でするときもいえることである。そ
れは、なるべくコップを使ってうがいをする
ことだ。コップに注がないと水を出しっぱな
しにするときがある。それを防ぐために歯み
がきのとき心がけたいと思う。二つ目は、お
ふろにはいるときだ。シャワーではいると、
水を使う量が増える。でも、よくそうにため
てはいると、次の人も共有できて、水を使
う量が減る。この二つのことを世界の人が
心がけたらどうだろう。そうになると、今より
も水の使う量は減るはずだ。そうしたら、余
った水を貧しい国の人々に分けることができ
るかもしれない。ぼくは、「この良いじゅん
環こそが当たり前なのだろう」と思った。

ぼくたちは水とともに助け合いながら生き

ている。そして、この水はぼくたちのもとに届くまでに、ダム管理する人、水をきれいにする人、多くの町や住人に支えられている。そんな水をもう「当たり前」だとは思わない。貴重な水と、ここまで届けてくれる周りの人々にもっと感謝しようと思う気持ちが増すばかりだ。

ぼくたちは、これからも水を使っていく。水を使う量を最低限におさえ、これからは使っていきたい。そして、良い水のじゅん環をつくることができるようにしたい。